

会長のことば

行動を通して見た札幌市の環境問題の解決策

身の回りの環境問題は実に多様です。第4次札幌市環境保全協議会40名の委員の「環境に対する思い」も多様でした。2年前、その「思い」の一端を解決しようと云う意気込みで委員になりましたが、試行錯誤のスタートから始まり、いま、その任期も終わろうとしています。

第2次・3次の札幌市環境保全協議会の報告書で、札幌市へ市民の立場から数多くの提言がなされ、その多くの項目については、私たち第4次の委員も同感でした。その提言が「実現に至らない問題点」を考えることにしました。

当初は、各委員の「環境に対する思い」を中心に、地球環境問題から生活環境まで「どのような環境問題があるか」「どのような協議の道があるか」について熱心に議論がなされました。

環境問題の解決には「市民自らが行動する」ことがキーポイントになります。そこで如何に協議会の提言が「行政施策へ取り入れられるために」という視点で捉えることになりました。

全委員自らが「社会実践活動」「試行実験活動」「環境調査」などを実践・行動して「どのようにしたら施策の中に取り入れられ、実効が得られるか」を具体的に例示して提言することになりました。実践・活動に当たっては、全体を小集団の「環境教育」「温暖化対策」「ごみ対策」「環境政策」の4部会で行動することになりました。

「環境教育部会」は、野外で自然観察を通じた実践活動、学校内での環境学習の試行体験学習を実施しました。「温暖化対策部会」は「クルマ社会の見直し、炭酸ガス発生量抑制」「パークアンドライドと交通問題」「都心部のピオトープネットワーク」などについて実状調査をもとに検討しました。「ごみ対策部会」はごみ減量化へのきっかけになることを期待して、子供から大人まで、最も身近なものに焦点を当て、「ごみ減量化パフォーマンス」「レジ袋削減に関する意識啓発を目的としてアンケート調査」の社会実践活動を行ないました。「環境政策部会」では「札幌市の環境保全に対する種々の政策、その実施が速やかに・分かりやすく市民や事業者へ伝達される方法」について、情報公開の資料を中心に具体的な事例を検討しました。

いずれも、「市民の目で行動を通して得た札幌市の環境問題に対する知見」は、札幌市の環境保全に大きな効果が発揮され、施策に取り入れられるきっかけになることと期待するものです。

2年間、協議会活動を支えてくださった多くの皆様に感謝いたします。

2004年6月

第4次札幌市環境保全協議会 会長 藤田郁男